
友から他人へ

遺志乃彼方

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

友から他人へ

【Nコード】

N8376C

【作者名】

遺志乃彼方

【あらすじ】

小さい頃からの友達がいつの間にか溝ができ、離れていってしまう話です。誰もが体験しそうな話なので、共感を持てたらいいとおもいます。

裕太とは小学生の時から友達だった。いつも一緒にいて、遊びに行き、悪さもした。毎日が楽しくて、ずっと続いて欲しかった。

初めて会ったのは小学1年生の時だった。

同じクラスで、話してるうちに仲良くなり、友達になった。裕太も俺もやんちゃでガキ大将で、悪戯が好きで、よく先生達を困らせていた。喧嘩もたくさんした。負けず嫌い同士で、大騒ぎになることもよくあった。中学校に行っても、性格は変わらず、先輩に目を付けられて、ボロボロにされたこともある。

月日が流れ、2年になった。怖いものがなくなり、鎖のちぎれた猛犬のようだった。先輩後輩関係なく、気に入らない奴は殴り、学校もあまり行かなくなった。この時から裕太と俺はズレ始めた。

裕太と道を歩いていると、他校の生徒がすれ違う。裕太はその生徒から金を巻き上げた。俺はただ見てただけだった。裕太と長くいるが、初めての事だった。裕太に何かあったのか聞くと、

「別に」と言われた。裕太の考えていることがわからない。その日から溝が出来始めた。裕太は学校を来なくなった。どうしたのかと思うが、連絡が取れなくなっていた。メールも電話も無視されていた。家に行っても留守だった。一週間ぐらい経った日に同級生に捕まった事知らされた。1ヶ月が経ち、裕太は久しぶりに学校に来た。雰囲気がいづもの裕太と違う。人を受け付けない雰囲気が漂う。裕太に話しかけたが無視された。態度にムカついたのか、俺は裕太に喧嘩を売っていた。

「捕まったらしいな。万引きでもしたか。それとも、チャリでもパクったか。」

俺の言葉に裕太はキレて、

「ああ」と大声を上げた。裕太が近づいて来て胸ぐらを捕まえら

れて

「もう一度言ってみろよ」と言ってきた。俺は、

「放せよ。パクられていきがるなよ。ダセエよ、おま……」言い終わる前に殴れた。俺も殴り返し喧嘩になっていた。廊下でしていた為、先生にすぐに止められた。裕太は止めに入った先生の手を払い、立ち去っていった。それから裕太は学校に来なくなった。俺もあまり学校行かなくなった。

道端で見かける時もあったが、裕太も俺も声をかけないですれ違う。楽しかったあの日、時には喧嘩し、時には笑い合い、思い出の１ページ。今は白紙のページが続いている。

（後書き）

いかがでしたか。初めての小説なので、伝わりづらかったかもしれません。読者の方々が読んで、何かを感じてくれたら幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8376c/>

友から他人へ

2011年1月26日02時25分発行